

## 銀杏の不思議

秋になって銀杏並木が美しくなりました。横浜日本大通の銀杏並木が好きです。大阪に行くと御堂筋の銀杏並木も素晴らしい。大阪では至る所ギンナンの実がなっているのに気づきます。横浜の銀杏は実はなっていませんね。雄の樹を挿し木して街路樹としているようです。実が落ちると臭くてたまりません。

銀杏は雄の樹と雌の樹がある雌雄異株です。銀杏の樹を見て雄と雌を見分けるのは難しいようです。実をつけるのが雌の樹というのが確実です。ギンナンの実は2面体と3面体があります。3面体は少なく全体の3~4%と言われています。

ふるさと岡山の兄貴の所に大きな雌の樹があります。兄貴は3面体のギンナンが雌の樹になると言って私にくれました。発芽したので自宅の裏と千葉の別荘に植えました。かれこれ20年位前です。一向に実をつけないので調べたら実生からだとも20年から30年かかるとのこと。

今年(2022年)やっと実がなりました。700個位のギンナンが取れた。兄貴の言っていることは半分位証明されたかな。でもインターネット情報では3面体が雌というのも怪しいという。なにしろ実を蒔いてから実がなるのに20年以上かかるので沢山蒔いて実験するのも大変です。



岡山の銀杏(2018年)



我が家の銀杏  
2015年



我が家の銀杏  
2018年

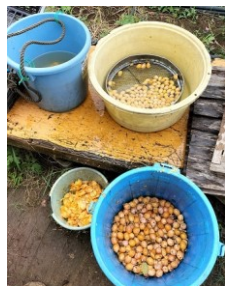


我が家の銀杏  
2022年(現在)

早速ギンナンを拾って処理しました。拾ったギンナンは水を入れたバケツにしばらく入れておくの外側の皮が取りやすくなります。ギンナンの汁がつくとかぶれますのでビニールの手袋が必要です。



ギンナン処理1



ギンナン処理2



ギンナン処理3



ギンナン処理4

ギンナンの実の外側の皮を取ります。(ギンナン処理1) 水につけてザルでこすると外側の皮はきれいに取れます。(ギンナン処理2) 網で水切りをします。(ギンナン処理3) 天日で干すと白色になります。(ギンナン処理4)

### ■銀杏の食べ方

ギンナンは生では食べられません。私はギンナンをペンチで少し割ってから封筒に入れ電子レンジで1分間チンします。そのまま電子レンジに入れると爆発しますので注意を。また、ギンナンは美味しくて栄養が豊富ですが中毒を起こすことがあります。原因は、ギンナンに含まれる成分がビタミンB6の作用を阻害するために起こるといわれています。大人には解毒作用が十分ありますの

で40個くらいまでなら問題ありません。子供は解毒作用が低いので多く食べないほうが良いようです。私には焼きたてのギンナンで飲むビールは格別です。毎回10個くらい食べるようにしています。

## ■ 銀杏の不思議

20数年経ってやっと実を着けてくれた銀杏に興味湧きインターネットで調べると銀杏は不思議な植物だと知りました。

### ・ 生きた化石

銀杏は、約2億5千万年前の古生代中頃に地球上に出現した古い植物で、氷河期も奇跡的に生き残りました。ダーウィンが、「生きた化石」と呼んだのはそのためです。自生しているのは中国の浙江省だけで、日本には中国への留学僧が持ち帰ったという説があります。現在では銀杏は世界中に分布していますが遺伝子を調査した結果中国の浙江省の銀杏がルーツだそうです。

### ・ 精子を持っている

また精子を持っていることも有名です。これは日本人の平瀬作五郎が1895年に発見しました。この銀杏は、東京の小石川植物園（東京大学大学院理学系研究科附属植物園）に現存しています。植物が陸上に進出する前、水中で受精した時代の姿を再現しているかのようです。銀杏以外では蘇鉄も同様に中生代の生き残りで精子を持っています。

一般的な草木は体内に雄雌の役割を担っている器官が入っていますが、銀杏の木は雄株と雌株が分かれている雌雄異株となっています。雄雌どちらもイチョウの花を咲かせますが、受粉した後に銀杏の実を付けるのは雌株の方です。このため雄株の役割は花を咲かせた後に雌株に受粉させることで、雌株は銀杏の実をつけて次の種を育てることだとされています。

### ・ 精子が泳ぐ…〈NHKのミクロワールドより〉

NHKのミクロワールドで「精子が泳ぐ」という興味ある紹介がされています。

秋の初め、ギンナンの中で、銀杏が子孫を残す独特の営みが行われます。精子を作り、なんと、それが泳ぐというのです。

〈雄の木〉 春、4月。青々と芽吹くこの時期に、イチョウは花を咲かせます。イチョウには、雄花をつける雄の木と、雌花をつける雌の木があります。雄の木の若葉の根元には、雄花が垂れ下がっています。雄花から花粉が出てきました。花粉は小さく、風に吹かれて飛んでいきます。スギ花粉と同じくらい小さいので2km位い飛ぶそうです。この花粉が、精子のもとになります。

〈雌の木〉 雌の木の若葉の根元からは、雌花が上に向かって伸びています。これが、秋に実るギンナンになります。雌花の先に、ぷっくりと液が出ています。飛んできた花粉をこの液で捕らえるのです。捕らえられた花粉は、しばらくすると、液とともに雌花の先にある穴から吸い込まれます。吸い込まれた花粉は穴の奥にある小さな部屋に入り、ここで、精子を作る準備をします。受精の準備が整うのは、およそ5ヵ月後です。

〈精子の成長〉 秋、9月上旬。小さかった雌花が大きく育って、垂れ下がっています。縦に切った中を見えます。真ん中にある丸い部分、小さな丸いものが二つあります。これが卵です。下には、花粉から成長した透明な袋があります。この中で精子が育ちます。その精子が、やがて、袋と卵への入り口をつなぐ空間を移動します。

〈受精〉 精子は一つの袋に二つできます。やがて繊毛を使って、袋の中で活発に動くようになります。精子ができるころになると、袋のまわりの空間は液体で満たされます。袋から出てきた精子はその中を泳ぎ、卵に向かいます。卵に到着すると受精します。

イチョウはこのようにして子孫を残していたのです。

まだまだ銀杏の樹には不思議なことがたくさんあるようです。何百年も経った雄の樹が突然実を着けて雌に性転換したとか、青森県西津軽郡深浦町には「垂乳根のイチョウ」と呼ばれている巨木があり幹から垂れた乳と呼ばれる気根の発達が著しく、中には地中にまで届き、それが幹の一部となりさらに成長としていくというイチョウ独自の生命力を見ることが出来るそうです。